



WEBにも掲載しています



はなぐるま

第166号

2023.8.20 発行

編集 はなぐるま編集委員会
〒141-0031 品川区西五反田 3-6-3 TEL:3491-2000
sakile@city.shinagawa.tokyo.jp FAX:3491-2002
発行元 大崎第一地域センター

品川区に今も残る

伝統工芸

日本刺繍は、絹地に絹糸で施す刺繍のことを指します。フランスやインドなど、各国の伝統的な刺繍がある中、日本刺繍の特徴は絹糸ならではの繊細な色使いや柔らかさです。今回は、日本刺繍作家の笹原木実（ささはらこのみ）さんにお話を伺いました。

自由に楽しく日本刺繍を身近に

笹原さんが日本刺繍と出会ったのは十八歳のころ。デパートのカルチャーセンターに通い、日本刺繍の楽しさを知りました。その後、上皇后美智子さまのローブデコルテ製作や貴乃花の化粧回しを手がけた秋山光男氏に師事します。それから十五年以上、「日中は仕事」「夜や休日には日本刺繍」を両立する生活を続けていましたが、日本刺繍の道に進むことを決断し、教室を始めました。

品川区にある笹原さんの日本刺繍教室の特徴は何より「自由」なことです。

「日本刺繍では定番の着物・帯・半衿に刺繍しても、今は着る機会が少ないですよ。レッスン料も安くないため、日本刺繍をやりたいな、と思ってもハードルが高いと感じる方が多いです。私は、日本刺繍の素晴らしさ・楽しさを多くの方に知っていただけるよう、制約のない自由な日本刺繍の機会を提供したいと思っています。額に入れて飾れるようにしたり、ピアスやブローチ等のアクセサリーにしたり、日傘に刺繍したり…。こうしなきゃいけない、という決まりはなるべく設けないようにしています。日本刺繍を身近に感じて、楽しんでほしいです」。

生地や糸で作品の表情が変化する

日本刺繍の制作でまず行うことは、「図案作成」です。テーマ、構図、配色など、考えることは沢山あります。

す。図案を考えるだけで何年ものかかることがあるそうです。図案が決まったら、次に生地を決めます。針を何回も刺すため、しっかりとした常用の生地がよく使われます。「生地を白のまま使うか、単色やグラデーションで染めて使うか、図案を元にイメージします。細かな色をイメージ通りに表現するため、生地は自分で染色します」と笹原さん。生地を準備したら、次は刺繍台に生地を張ります。布目を均等に貼らないと、完成後に刺繍が歪んでしまうため、最も重要な工程と言っても過言ではありません。生地は図案を下書きしたら、刺繍糸の準備です。蚕から取れた生糸（きいと）は何本かの糸がまとまって一本になっている平糸（ひらいと）の状態で販売されていますが、それをさらに分け、分けた糸を「2管合わせ」や「4管合わせ」に撚（よ）って使用します（管（すが）＝糸の最小単位）。細い糸を使うからこそ、日本刺繍は繊細な表現が出来るのです。撚らずに平糸のまま刺繍する事もありますが、この場合も一本の糸を何管かに分けて使用します。柔らかい印象の花は平糸を使い、しっかりとした雰囲気のはねは撚り糸を使うなど、表現したいものに合わせ



笹原さんの作品《寄り添う》

て糸を使い分けます。「掌の感覚はその日によって



制作中の笹原さん

異なるため、経験と技術を要する作業です。同じ箇所です。同じ撚りの形にしないと、うまく質感を表すことができません」と笹原さんは実演してくださいました。ここまで準備してやっと縫い始めることができます。日本刺繍は両手を使って縫うため、集中力が必要です。百種類以上ある技法を使い分けることで、強弱をつけた繊細な作品ができあがります。

どれだけ作っても飽きない、日本刺繍の世界

笹原さんの作品へのこだわりは、こだわらないこと。教室での生徒さんへの指導だけでなく、自身の作品も柔軟な発想で自由に日本刺繍を楽しむことを大切にしています。



笹原さんの作品《雲中菩薩》

「とにかく綺麗なことが日本刺繍の魅力です。色も柄もバリエーションが豊かで、自由で、何枚制作しても次に縫いたい作品のイメージが湧き上がってくるんです。和風っぽい作品の次は洋風にしようかな…など考えると止まらなくて、図案のストックがどんどん増えるから制作が追いつきません笑。長く日本刺繍の世界にいますが、全く飽きないですね」。

最後に、笹原さんの夢や目標について伺いました。「二年ごとに行っている教室の作品展は、生徒さんがとても楽しみにしてくれているので、これからも続けたいです。個人の夢は、大きな作品を作ること。実現させるためにも、まずは健康であることと、今後も変わらずに自由な発想で作品を作り続けたいです」。

（編集委員 古郡）

大崎第一地域センターでは、「はなぐるま」のほかにも SNS やサイトで、地域の様々な情報を発信しています。ぜひご覧ください！

※後日、地域共創メディア「大崎×五反田 LINK」にカラーの記事が掲載されます。



Twitter
@osakidai1



Instagram
osakidai1



大崎×五反田 Link
OSAKI GOTANDA LINK

地域共創メディア
「大崎×五反田 LINK」

